

哲学・医学・能

—よく生きるためのまなびとあそび—

身体と心、意識と無意識、過去と未来、傷つくこと、癒えること、いのち、魂…。

哲学や医学で扱われてきた様々なテーマは、能の中で繰り返し演じられてきたものでもあります。

人類の歴史とともにある哲学、医学、そして芸能。ぜんぶまとめて考えてみましょう。

2018.11.24.SAT

14:00-18:00 (13:30 開場)

法政大学 市ヶ谷キャンパス
ボアソナードタワー 26F スカイホール

入場無料・定員180名・専用フォームにて申し込み(申込方法は裏面参照)

稲葉俊郎

(東大病院 循環器内科)

山内志朗

(慶應義塾大学 文学部)

山中玲子

(法政大学 能楽研究所)

いのち
habitus
記憶
philosophy
医療
意識のあい
能

「能楽の国際・学際的研究拠点」の第一期が2019年3月で終わります。私たちはこの5年あまり、能楽研究のフィールドを拓げるべく、国内外で活躍するさまざまな分野の研究者・実演者との協力や、共同研究を進めてきました。コンピュータでの謡分析、CGによる演能空間の復元、ロボットデザインへの応用等、新しい研究も動き出しています。

今回の催しは、こうした拠点の活動を踏まえ、次のステージに向けてさらにもう一步、踏み出してみようと思案しました。「いのち」を扱う医学や「魂」について考える哲学の方法は、能を考える際にどのような新しい光を当ててくれるのでしょうか。夢や記憶や情念を描くのに長けた能は、私たちの意識や無意識、いのち、魂とどう結びついていくのでしょうか。医学・哲学の分野でそれぞれ新しい風を起こしているお二人を迎え、当日御参加のみなさまとともに、さまざまな方向から考えてみたいと思います。

プログラム

- 14:00 ~ 14:10 趣旨説明
- 14:10 ~ 14:40 山中玲子「夢の感覚・この場所の記憶 ー夢幻能のしくみと魅力ー」
- 14:40 ~ 15:30 稲葉俊郎「能楽と医学の接点 意識のあわい」
- 15:50 ~ 16:40 山内志朗「魂と風と聖霊と」
- 16:45 ~ 18:00 ディスカッション

稲葉俊郎 Inaba Toshiro

1979年、熊本県生まれ。
東京大学附属病院循環器内科医助教。
カテーテル治療や先天性心疾患を専門とし、往診による在宅医療、夏季の山岳医療にも従事。伝統医療、補完代替医療、民間医療にも造詣が深い。能楽を学びながら、未来の医療の枠を広げるよう、芸術・伝統芸能・農業・民俗学など、様々な分野との化学反応を起こす活動を積極的に行っている。
著書に『いのちを呼びさますもの一ひとのこころとからだ』（アノニマ・スタジオ）、『見えないものに、耳をすますー音楽と医療の対話』（同上。大友良英と共著）など。

山内志朗 Yamauchi Shiro

1957年、山形県生まれ。
慶應義塾大学文学部教授。
専門は中世哲学。西洋中世のフランシスコ会に発する聖霊論の哲学と、即身仏によって知られる湯殿山の修験道の研究を行ってきた。新海誠監督の『君の名は。』に大きな影響を受けた。アロマセラピーや手相術の歴史、最近では経済学の中世的展開を追いかけている。
著書に『普遍論争』（平凡社）、『天使の記号学』（岩波書店）、『湯殿山の哲学』（ぶねうま舎）など。

山中玲子 Yamanaka Reiko

1957年、東京都生まれ。
法政大学能楽研究所所長。
専門は能の作品研究と演出研究。現在は国内外の研究者と協力しての英語版能楽全書の編集、能の技法や美意識をロボットデザインに活かす文理融合研究など、能楽研究の国際化・学際化にも励んでいる。
著書に『能の演出 その形成と変容』（若草書房）、『能を面白く見せる工夫』（檜書店。横道萬里雄・松本雅と共著）、編著に『世阿弥のこぼれ言葉一〇〇選』（檜書店）など。



最寄り駅からのアクセス

● JR総武線、東京メトロ有楽町線・南北線の市ヶ谷駅または飯田橋駅下車、徒歩10分。● 都営新宿線市ヶ谷駅下車、徒歩10分。● 東京メトロ東西線・都営大江戸線飯田橋駅下車、徒歩10分。

入場料 無料
定員 180名（定員に達し次第、締切となります。）
申込方法 法政大学能楽研究所トップページから「能楽の国際・学際的研究拠点」へアクセス。

トップページ「お知らせ」
> シンポジウム「哲学・医学・能」
>> 申し込み専用フォーム
必要事項を入力し、お申し込みください。

富士見校地内の各校舎配置

